
ゴーストヘッド

シマウマな時計

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴーストヘッド

【Nコード】

N8694C

【作者名】

シマウマな時計

【あらすじ】

数年前、唐突に起きた弁天町の事件。数年後、またあの恐怖が蘇る。

ゝ序章ゝ 暗闇（前書き）

この小説は連載中の中の一部です。

く序章く 暗闇

序章 上からの喧騒でまた目が覚めた。

数年前から上からの物音がひどくなり、俺はゆっくり眠る事ができないでいる。最初は物凄い振動がしてこの世の終わりがきたのかと思ったが、しばらくして収まった。静寂が戻ったのもつかの間。今度は、甲高い女の声が上から響きだした。それも一人ならまだしもかなりの大勢いるらしい。昼間は女共の声が止むことはなかった。もう何年こうしていなけりやならないのか。

「くそつたれ……」毎日のように、口から吐いて出る言葉。俺は想像していた…あの女が俺を忘れ、幸せに暮らしている姿。

笑い 怒り 泣く、飯を食い 風呂に入り 暖かい布団に寝る。当たり前前の生活を当たり前に行っているあの女を想像し、俺は憎悪し、嫉妬を重ね、あの女を殺す瞬間を想像して楽しむ。

「誰が助けてやったのか忘れたのか？俺がいなかったら、お前はもう墓の中だった。いや…生まれ時から、土の中だった俺達には一番お似合いだな…」。誰もいない暗闇に毎日のように愚痴る。

それがこの暗闇の地獄の中での唯一の安息だった。数年前だ。俺の横に転がっている野郎のせいで俺達はエライ目にあつた。気味の悪いガキにゾンビ…そして、俺の横にいるこの般若野郎に追いかけて殺されそうになった。俺があいつを守ってやった。そうじゃなきゃあの女とつくに死んでやがるんだ…。また同じ事を思い出す。

いつたい、いつになったらまた外に出られる？いつになったらまた会えるかな？なあ…優…。

翔は暗闇に向かってまた誰にもなく呟く。

ゝ序章ゝ 暗闇（後書き）

続きをお楽しみに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8694c/>

ゴーストヘッド

2011年1月15日15時16分発行